

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について（2024年12月現在）

2024年12月16日

株式会社 バイタルケーエスケーホールディングス

©VITAL KSK HOLDINGS, INC.

2023年12月26日に公表した「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」の進捗をご報告します。



まずこちらは、2023年12月26日に公表した「当社PBR1倍までのロードマップ」に関する資料です。

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、従来から様々な取り組みを行ってまいりましたが、PBRはいまだ0.6倍とプライム市場に上場している企業として十分な水準とは言えない状況が続いております。

このような中、このロードマップの見直しを含めて、再度検討をしているところです。

■ 投資家の声と当社の検討状況

投資家の声

御社の直近のROEは5.7%、
PBRは0.6倍となっており
プライム企業として十分な水準ではない

2022年10月28日に
企業価値向上に関する方針を出したが
進捗が遅いと感じる

更なるアクションが必要ではないか



2022年10月以降
企業価値向上のための取組みを実行中

株価も当時と比較し約2倍になったが
まだまだ十分とは考えていない

早期にROE目標を達成できるよう
具体的対策を取締役会でも議論

実際に検討を進めていくにあたっては、ステークホルダーの声に真摯に耳を傾ける必要があり、当社は投資家の皆様とのエンゲージメントも強化しております。

ここからは、投資家の皆様の声と、それに対する当社の現在の検討状況についてご説明いたします。

まず、当社の現状のROEやPBRの水準について十分ではないというご指摘です。また、昨年末に公表したロードマップで示した2031年度という時間軸についても、もっと早めるべきではないかというご意見を複数頂いております。

こういった声を踏まえて、現在取締役会において議論を重ねております。

■ 投資家の声と当社の検討状況

投資家の声

コーポレートガバナンス・コードでは
政策保有株式の縮減が謳われている

御社は2023年度末時点で
純資産ベースで40%を超える
政策保有株式を保有している

資本効率の改善の観点からも
縮減スピードをもっと速めるべきだ



従来から政策保有株式縮減に
取り組んできたが、前期末の株高により
純資産ベースの割合が増加

現在、株式処分の加速はもちろん
売却によって生まれるキャッシュを
既存事業投資、未来への成長投資
株主還元の強化など
どう活用していくか検討している

また、政策保有株式の縮減についても、多くのご指摘を頂いております。

当社は、従来から政策保有株式の処分に取り組んでまいりましたが、前期末の株高の影響により純資産ベースでの割合が増加してしまいました。こちら、当初は「2031年度時点で純資産ベース10%未満まで削減」という計画を立てておりましたが、一層のスピードアップが必要ではないかと感じております。

また、単に株式を処分するだけでなく、その売却によって生まれたキャッシュを何に活用していくかも重要と考えております。

地域のヘルスケアを支える医薬品の安定供給に資する既存設備投資、未来の企業価値向上につながる成長投資、そして株主還元の強化など、最適なキャッシュフローアロケーションについて、現在検討を進めております。

■ 投資家の声と当社の検討状況

投資家の声

御社の課題は
バランスシートの改善である

現状のROEやROICは
資本コストを下回っているのではないか

遊休不動産や政策保有株式の処分など
資本効率のよい経営を目指すべき



バランスシートが肥大化し
資本効率が落ちているのは課題と認識

現在、セグメントや関係会社ごとに
ROEやROICを算出し、課題を抽出中

それらを基に、当社の資本コストを上回る
資本収益性を実現できるよう
具体的な対応策を検討中

次に、バランスシートの改善についてです。

先ほどご説明した政策保有株式に代表されるように、当社のバランスシートはここ数年肥大化し、資本効率が落ちています。

現在、セグメントおよび関係会社ごとにROEやROICを算出し、課題を抽出しているところです。

それらを基に、資本コストを上回る資本収益性を実現できるよう、具体的な対応策について検討しております。

■ 投資家の声と当社の検討状況

投資家の声

毎年の薬価改定など
厳しい経営環境が続いている中
ここ数年、配当も増やしているが
株価には反映せず、PBRも1倍割れ

株主還元の一層の強化など
株価上昇につながる取り組みを
もってしていくべきではないか



2022年10月に
従来の配当性向25%以上から
DOE2%以上、総還元性向50%以上に
株主還元策を変更

その後の他企業の動向や
マーケットからの要請も踏まえて
株主還元のあり方についても検討

また、株主還元の一層の強化についても、様々なご意見を頂いております。

当社は、2022年10月に、従来の「配当性向25%以上」から「DOE2%以上、総還元性向50%以上」に株主還元方針を変更しました。

その結果、配当金総額は1.6倍まで増加し、当時と比較して株価も2倍近く上昇しました。

一方で、その後の他企業の動向や、マーケットが求めている水準も踏まえ、今後の株主還元のあり方についても検討を進めています。

第6次中期経営計画(FY2025－2027)に向けて

現在、セグメント・関係会社ごとに
ROE・ROICを算出し、課題を抽出中

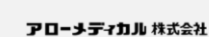
医薬品卸

 バイタルネット  株式会社ケーエスケー

薬局

   天王保健調剤センター

動物薬卸

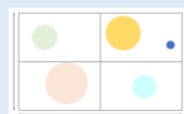
 株式会社 アグロ ジャパン  アローメディカル 株式会社

その他

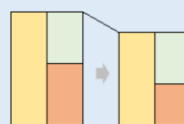
 EIMI 医療経営研究所  バイタルケア  株式会社たんぽぽ
 株式会社スレアーク  株式会社バイタルエクスプレス  DAISHIN

第6次中期経営計画

事業ポートフォリオ
マネジメント



財務戦略
・
資本政策



キャッシュフロー
アロケーション



当社では、2025年4月からスタートする第6次中期経営計画(FY2025－2027)の策定をすすめているところであり、

- ・既存事業と新規事業含めた今後の事業ポートフォリオ戦略
- ・事業運営の土台となる財務戦略や資本政策
- ・事業活動を通じて創出したキャッシュの配分方針

の3点について次期中期経営計画の中に具体的な方針、戦略を取り入れ持続的な成長と中長期的な企業価値向上に取り組んでまいります。

■ 将来見通しに係る記述事項

本資料で記述されている当社の将来の計画・戦略・業績予想などは現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、経済情勢・市場環境等の様々な要因の変化により、実際の事業内容や業績はこれらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを、ご承知おきください。

従いまして、当社の業績や企業価値等をご検討される際にこれらの見通しのみに全面的に依拠することは避けていただきますようお願いいたします。

また、本資料に記述するいかなる情報も、当社の株式等の購入や売却を勧誘したりこれらに対する投資をアドバイスする目的で作成されたものではありません。

投資に関するご判断は、ご自身にてお願いいたします。

■ お問い合わせ先

株式会社 **バイタルケ-エスケー-ホールディングス**

コーポレートコミュニケーション部

TEL : 03-5787-8550

Mail : ir@vitalksk.co.jp

担当 : 佐藤、南城